

日経平均先物・日経レバレッジ（コード 1570）、個別株の仕掛けるタイミングを考える。

株トーク

株トーク・虎の穴マーケットセミナー（19年2月2日鹿児島）

マーケットストラテジスト 坂口隆信

1 参考にするテクニカル（オシレータ）指標 その1 移動平均線（以下 MA と略します。）5日 20日 25日 50日 75日 200日

2 参考にするテクニカル（オシレータ）指標 その2 MACD（参考値は5 25or26 9、RCIは14日 or3つの組み合わせ9 26 52を参考に）

3 参考にすべき指数と金融商品 米国10年債利回り ドル円 NYダウ工業株指数（ナスダックでも良い。図表はダウを参考にしている。）

3の参考にすべき優先順位 NYダウ工業株指数（ナスダック） ドル円 米国10年債利回り 要は米国株の終値を見るだけで良い。

↓ 個別株でもヒントにできる、移動平均線と移動平均線同士のゴールデンクロスを活かした投資手法とその考え方 ↓

※ 下落トレンドからのスタートした際の取り組み方を、①～⑩の売買パターンで説明、売りは上昇トレンドからスタートするイメージで

① 株価が5日 MA を上回る **買い** 仕掛けの初期段階、デイトレと超短期は5日 MA 上回る買いをローソク足と銘柄見て判断する。

② 株価が25日 MA を上回る **買い**と**①の利食い**（超短期～短期）

③ 5日移動平均線が25日移動平均線を上回る **買い**と**①と②の利食い**（短期）

中期の検討も、流れが弱ければ、ここで止まるリスクがある。戻り売り、売り買いする季節によっては、ここ止まる程度の弱い値動きである。

④ 20日 MA が25日 MA を上回る **買い増しを検討する**。設定値に近い数値のゴールデンクロスは、日々の値動きが良化という考え方。

(2 枚目)

- ⑤ 株価 or5 日 MA が 50 日 MA を上回る **買い増し**と**①～④の利食い** ①を引っ張り続けるのではなく、利食い千人力を実践する。
- ⑥ 株価 or5 日 MA が 75 日 MA を上回る **買い**と**①～⑤の利食い** 株価が⑤または⑥付近であれば、RCI や MACD の位置にも注意する。
- ⑦ ⑥までの過程で、株価が 100 日 MA または 200 日 MA との位置関係、上値抵抗線、下値支持線となるか注意して見守る。

**株価はここを上回ってくるのか、それとも抜け切れず沈んでいくのか、調整過程続いた中で下値支持となるのか、大きな分岐点である。**

①～⑥の過程で⑦の位置に来れば、中期的利食いの流れに至ることもある。下がり続ける過程で、⑦が試されると一瞬の反発狙いが期待できる。

- ⑧ 25 日 MA が 50 日 MA を上回る **買い増し**、ここまで持続し続けたら、⑨を狙った持続という判断。

**⑨ 25 日 MA が 75 日 MA を上回る、いわゆる誰もが一番知っている日足の中期と長期移動平均線のゴールデクロス (GC)**

株価が 25 日移動平均線と 75 日移動平均線を上回り、①～⑦の過程をこなしながら 25 日移動平均線が 75 日移動平均線を突破することである。

直近安値から 25 日 MA と 75 日 MA までの上昇率を考えるなら、しっかりと①～⑥までの過程で仕掛けた際は利食い千人力が重要である。

①～⑥の過程があるから、いったんは株価が下落するというのは、その長い過程を踏まえてきたからこそ、25MA75MA・GC の意味は重い。

⑦はチャンスとみた買い持続という判断 (リスク) 取ることも重要、日柄調整する中で、25MA が 75MA に対してプラス乖離の機を伺う。

25 日 MA が完全に 75 日 MA を上放れてくると、強気の上昇トレンドとなり、チャート上の MA は上から短期・中期・長期線となる。

(3 枚目に続く)

(3 枚目)

⑩ その他の移動平均線同士のゴールデンクロスを説明

20 日移動平均線が 50 日移動平均線、75 日移動平均線を上回れば (GC すれば)、25 日と 50 日、25 日と 75 日の GC 狙った買い。

中期 GC 後 (25MA・75MA)、25 日移動平均線が 200 日移動平均線、75 日移動平均線が 200 日移動平均線を上回れば、長期上昇トレンド入り。

※ 注意しておいて欲しいこと

①～⑩までの説明には、日々の値動きの要因である米国株の動向、経済指標や企業決算、地政学リスク、指数と個別株の基礎的条件を考慮していません。

ここに上記の要因を加えることで、値動きが形成され、そして日々・日中一喜一憂することになります。だからこそ、惑わされ過ぎないように流れを覚えておきましょう。

↓ボリンジャーバンド、VWAP 値を参考にした投資戦略↓

ボリンジャーバンドの設定する数値は 20 日が最良、あらかじめ設定されている数値は 25 日であり、変更をお勧めします。

ただし、自身の投資スタンスが 25 日で慣れている場合は、その限りではなく、自分にとって最も適した数値で取り組んでください。

ボリンジャーバンドマイナス 2 は打診買い、マイナス 3 シグマは逆張りの買い仕掛けで、反転する機を RCI や MACD 合わせて伺っていく。

ただし、マイナス  $2\sigma$  でも  $3\sigma$  でも終値が VWAP 値を下回っていれば、翌日さらに下落して下値模索する可能性も心しておく。

リスクはあるが、それだけ売り込まれると売り一色となって、むしろ反転に向かうための底入れを狙っていくことも重要である。

むしろ反転に向かうための底入れを狙っていくことも重要である。⇒デイトレーダーがいつも狙っている局面です。(4 枚目に続く)

(4 枚目)

下落トレンドや、相場全体が弱い値動きの中でも、終値が VWAP 値を上回っていれば、反発狙いの持越しも考えてみる。

**VWAP 値とは、先物やレバレッジ、そして個別株の日中の売買平均価格のことを指し、一般的に上回ってれば上昇しやすい、下回ってれば下落しやすいと**言われています。

かんたんに言えば、いかなる状況下においても、株価が VWAP 値を上回ってれば、目先の上昇がテクニカル的に狙いやすいということです。

VWAP 値を下回れば利食い、相場の行き過ぎた上昇局面においては、下回った際に利確するための目安として考えることもできます。

買いの法則 (仕掛ける当日の) 移動平均線上抜け + ローソク足陽線 + VWAP 値 < 株価・先物価格

買いの法則 (仕掛ける当日の) ローソク足陽線 + VWAP 値 < 株価・先物価格

買いの法則 (仕掛ける当日の) ボリンジャーバンドマイナス 2 + ローソク足陽線 or 長い下ヒゲ + VWAP 値 < 株価・先物価格

買いの法則 (仕掛ける当日の) ボリンジャーバンドマイナス 3 + ローソク足陽線 or 長い下ヒゲ + VWAP 値 < 株価・先物価格

買いの法則 (仕掛ける当日の) 5 日 MA or 20 日 MA がゴールデンクロス + ローソク足陽線 + VWAP 値 < 株価・先物価格

※ 買いの法則は、短期目線での買い仕掛けが中心、仕掛けた後にどうすればいいのか迷う前にルールを決めておく。

例 先物であれば、買い値から 100 円マイナス、VWAP 値下回ったら等、マイルールを設定する。**迷った際は、株トーク・坂口に連絡する。**

この投資情報、参考資料は、投資勧誘を目的としたものではありません。

また、文中に使用されている言葉、数字等は万全を期してはおりますが、その正確性に責任は負いかねます。

銘柄選択、投資時期等の最終決定はお客様ご自身でご判断なさるようお願い致します。

(メモ)